

# TPP参加により貿易の自由化を進め アジア太平洋地域でのプレゼンスを 向上させる

駐日メキシコ大使

カルロス・フェルナンド・アルマーダ・ロペス  
Carlos Fernando Almada Lopez



二〇一五年のGDPランキングでメキシコは世界第一五位に位置し、最も重要な新興国の一つに数えられている。また、メキシコは一件のFTA(自由貿易協定)に加え四六カ国とEPA(経済連携協定)を締結しており、貿易の自由化が最も進んだ国の一つでもある。二〇〇五年四月には、日本・メキシコ経済連携協定が結ばれている。

メキシコの貿易自由化は前世紀の一九八〇年代にスタートした。この時期に、わが国は徐々に衰退の道を進んでいた輸入代替モデルに依存した閉鎖的な経済から、経済イシューへの国家の介入を減らしながら貿易モデルへ

と徐々に転換していた。この転換の結果、メキシコの貿易は多様化し、単一商品(石油)への依存を解消するとともに、一九八六年のGATT(関税及び貿易に関する一般協定)加盟、一九九三年のAPEC(アジア太平洋経済協力)加盟、一九九四年のOECD(経済協力開発機構)加盟、さらには主要貿易相手国とのFTA/EPAの締結など、極めて重要な決定がなされた。

## アジア太平洋地域での プレゼンスの向上

これらの協定はいずれも成功で、メキシコ

製品は今や世界のGDPの五八%に相当する。一一・五億人超の消費者に提供されている。NAFTA(北米自由貿易協定)発効の前年である一九九三年以降、メキシコの貿易額は世界全体で五六二%の増加を記録した。その内訳は、輸出六三四%増、輸入五〇五%増となっている。

対日貿易については、日本・メキシコ経済連携協定の発効以降、二〇〇四年の一二七億五八〇〇万ドルから二〇一五年には二二一億二九〇〇万ドルと七三・四%の拡大を見せた。このうち対日輸出は一一九%増(二億七五〇〇万ドルから四七億六一〇〇万ドルへ)、

日本からの輸入は六四％増(一〇五億八三〇〇万ドルから一七三億六八〇〇万ドル)で、現在、メキシコにとって日本は世界第三位の貿易相手国である。

太平洋同盟ならびにTPP(環太平洋パートナーシップ)協定への加盟は、メキシコが三〇年にわたり進めてきた自由貿易への取り組みと軌を一にするものである。TPPへの加盟により、自由度はもとより世界で最も活気に溢れたアジア太平洋地域におけるメキシコのプレゼンスもさらに向上する。TPPの加盟二カ国は、世界のGDPの三六％、貿易額の二五％、FDI(海外直接投資)の二八％、および人口の一％を占める。TPP参加はこの経済圏に入ることを意味する。現在、メキシコ以外の一カ国は、メキシコの貿易額全体の七二％、対メキシコFDIの五五％を占めている。TPPの発効によりこれらの数字は大幅に増加するものと見込まれる。メキシコがTPP加盟を決めた背景には、TPP加盟国のうち五カ国(カナダ、チリ、日本、ペルー、米国)と締結しているFTAおよびEPAを強化、深化させるという国家戦略がある。加盟国間での貿易特恵を強めるとともにメキシコ製品の市場アクセス、特に日本市場へのアクセスを拡大することをねらいとしている。加えて、TPPにより、メキ

シコ製品は新たに六カ国(オーストラリア、ブルネイ、マレーシア、ニュージーランド、シンガポール、ベトナム)の一億五五〇〇万人超の消費者の手に届く道が開かれる。

### TPP加盟はメキシコの発展にとってプラス

TPP交渉は、メキシコにとって満足のいくかたちでまとまった。発効次第、メキシコ製品の九〇％が直ちにTPP加盟国に届くことになり、九％が今後五年から一〇年の間に自由化される。残りの一％は部分的な譲歩である。輸入面では、加盟国の商品の七七％が直ちにメキシコにアクセス可能となり、三％が五年後、一九％が一〇年から一五年後に自由化され、残りの一％が部分的な譲歩となった。

TPPへの加盟により最も恩恵を受けると期待される部門、商品には、自動車・自動車部品、航空機、電気電子機器、医療器具、化粧品、テキスタイル、メスカル(メキシコ特産蒸留酒)、ビール、さらにはアボカド、豚肉、牛肉、オレングジュースといった農畜産品が挙げられる。現在、こうした製品の多く、特に農畜産品は日本への主要輸出品となっている。

メキシコ政府の試算では、TPPの発効以

降五年間でメキシコの輸出額は一五〇〇億ドル増加し、GDPを一・三％押し上げるとされている。TPPへの加盟はさまざまな理由でメキシコおよびメキシコ経済の発展にとって極めて大きなプラスとなる。主たる理由は以下のとおりである。

- ・ 現政権が承認した一一の構造改革を最大限に活用できる
- ・ TPPの枠内で貿易および投資面の利益の保護を強化できる
- ・ NAFTA諸国と統合されたメキシコのバリューチェーンを強化し、また輸出におけるメキシコ原産品認定実績を活用できる
- ・ 競争力のある価格で外国の商品や技術にアクセスできるため、メキシコの消費者にとって有利となる
- ・ 高成長を続けるアジア太平洋地域のみならず世界全体において、貿易ルールを定める権利を持つ主要国の先頭に立つことができる

今後、TPPを通じてメキシコと日本の経済関係が新たな段階に入り、貿易と投資の結び付きがさらに強化・深化され、両国の政府企業、そして何よりも消費者が恩恵を得ることになる。

※本稿は2016年3月に「Mexico's membership in Trans-Pacific Partnership(TPP) will reinforce and consolidate the country's trade openness and presence in Asia-Pacific region」のタイトルで英文寄稿された